



Ⅱ 科学技術振興機構  
理事長定例説明会  
美濃島電通大教授が「知的光シンセサイザ」で講演

美濃島電気通信大教授

濱口 JST 理事長

寄せられた相談事業の一部を紹介。JSTの知見や経験を熊本の復興に活かした

物の生産・加工技術の向上)など地元からJSTに産業(カキ、ノリなど海産物)の生産・加工技術の活用した技術開発)、地域防災(熊本地震のデータを)

自由な操作、使い尽くし、あらゆる科学技術の画期的進展をもたらすような新しい挑戦をしていきたい、と力強く述べた。

方向性として、計測、伝送、表示、物性制御や加工まで、光を真にインテリジェントなメインプレイヤーに。光を自由な操作、使い尽くし、あらゆる科学技術の画期的進展をもたらすような新しい挑戦をしていきたい、と力強く述べた。

6月27日、千代田区五番町と同機構東京本部別館で、平成29年度第3回理事長定例説明会を開いた。濱口理事長からは、熊本地震からの早期復興に向けて①研究開発の支援②復興を担う若手人材の育成③研究開発の支援では、熊本復興支援の課題の公募を開始したことをはじめ、文化財修復(科学技術を活用した熊本城石垣修復技術)、

ST・ERATO知的光シンセサイザ研究総括(電気通信大学基盤理工学専攻教授)が「光を自由自在に操作する知的シンセサイザと革新的応用」と題して講演。今後の方向性として、計測、伝送、表示、物性制御や加工まで、光を真にインテリジェントなメインプレイヤーに。光を自由な操作、使い尽くし、あらゆる科学技術の画期的進展をもたらすような新しい挑戦をしていきたい、と力強く述べた。

科学技術振興機構(JST、濱口道成理事長)は、6月27日、千代田区五番町と同機構東京本部別館で、平成29年度第3回理事長定例説明会を開いた。濱口理事長からは、熊本地震からの早期復興に向けて①研究開発の支援②復興を担う若手人材の育成③研究開発の支援では、熊本復興支援の課題の公募を開始したことをはじめ、文化財修復(科学技術を活用した熊本城石垣修復技術)、物の生産・加工技術の向上)など地元からJSTに産業(カキ、ノリなど海産物)の生産・加工技術の活用した技術開発)、地域防災(熊本地震のデータを)